

当月のS&P MLP 指数の動き

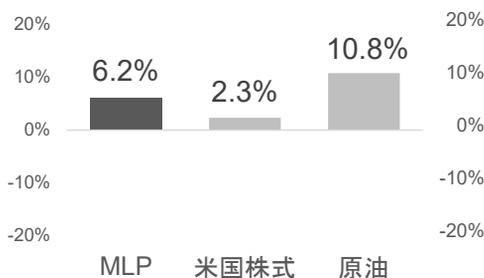
8月のS&P MLP 指数(米ドルベース/トータルリターン)は、前月末比-2.3%と2カ月連続での下落となりました。

月前半は、新型コロナウイルスの変異株の感染拡大懸念などを受け、原油価格が下落する中、MLPも下落基調となりました。月末にかけては、米国において一部の新型コロナウイルス向けワクチンが正式に承認されたことを受け、ワクチン接種の加速とともに、世界的に景気回復が進展するとの見方が拡がり、原油価格が反発したこと、そして、米国株式市場が堅調な推移となったことなどから、MLPも値を戻す展開となりました。ただし、月前半の下落を取り戻すまでには至りませんでした。

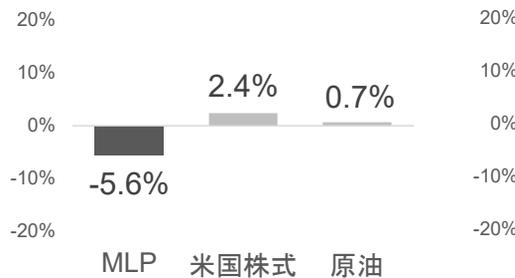
過去3カ月の主要指標の月次騰落率

(米ドルベース、トータルリターン)

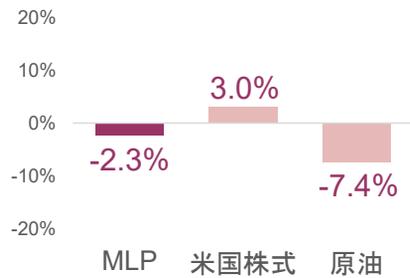
2021年6月



2021年7月



2021年8月



主要指標の動き

MLP:S&P MLP 指数、米国株式:S&P 500 種指数、原油:WTI

休場の場合は、直前の営業日のデータを使用	指数値	指数値	指数値	指数値	騰落率		
	当月末	前月末	3か月前月末	前年末	前月末比	3か月前月末比	前年末比
S&P MLP 指数(米ドルベース)							
トータルリターン	4,274.32	4,376.43	4,367.20	3,165.76	-2.3%	-2.1%	35.0%
プライスリターン	1,038.71	1,075.45	1,081.98	818.13	-3.4%	-4.0%	27.0%
S&P 500種 指数(米ドルベース)							
トータルリターン	9,433.58	9,155.21	8,738.77	7,759.35	3.0%	8.0%	21.6%
プライスリターン	4,522.68	4,395.26	4,204.11	3,756.07	2.9%	7.6%	20.4%
S&P 500種 エネルギー株指数(米ドルベース)							
トータルリターン	734.78	750.12	781.66	561.47	-2.0%	-6.0%	30.9%
プライスリターン	362.26	372.99	389.82	286.14	-2.9%	-7.1%	26.6%
S&P 米国 REIT 指数(米ドルベース)							
トータルリターン	1,781.09	1,748.43	1,624.09	1,369.91	1.9%	9.7%	30.0%
プライスリターン	391.67	385.01	359.78	306.79	1.7%	8.9%	27.7%
米国ハイイールド債(ICE BofA 米国ハイイールド・インデックス(米ドルベース))							
トータルリターン	1,567.95	1,559.44	1,532.96	1,498.42	0.5%	2.3%	4.6%
プライスリターン	77.79	77.71	77.08	77.10	0.1%	0.9%	0.9%
米国10年国債利回り							
	1.31%	1.22%	1.59%	0.91%	0.09	-0.28	0.40
原油(WTI) 米ドル/1バレル当たり							
	68.50	73.95	66.32	48.52	-7.4%	3.3%	41.2%
天然ガス先物 米ドル/百万btu当たり							
	4.38	3.91	2.99	2.54	11.8%	46.6%	72.4%
米ドル(対円)							
	110.02	109.72	109.58	103.25	0.3%	0.4%	6.6%

※「米国10年国債利回り」の騰落率は、変化率(%)ではなく、利回りの変化幅を示しています。

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。

当月の出来事いろいろ

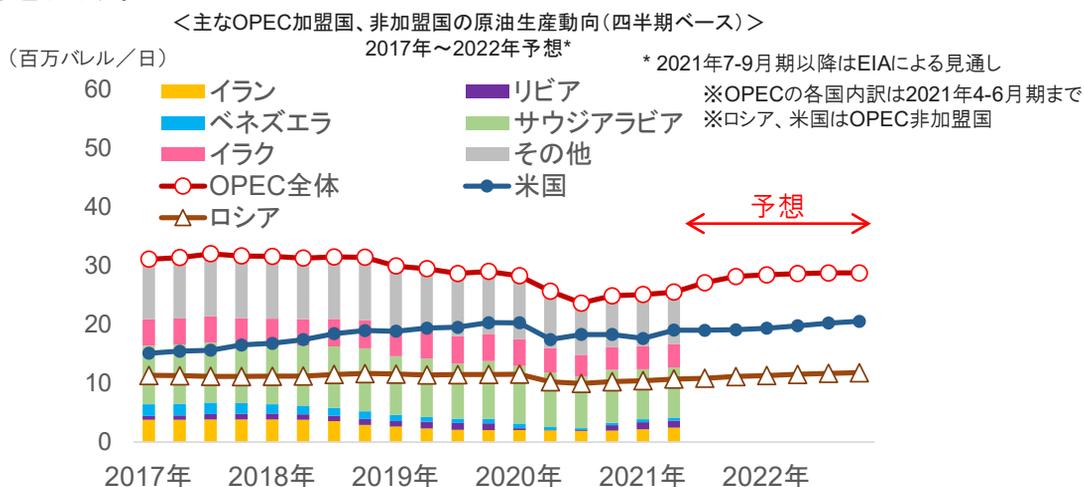
- 新型コロナウイルスの変異株の感染拡大懸念に加え、主要経済指標の発表を受けて中国の景気鈍化懸念が広がったことなどを背景に、原油価格が下落基調となり、WTI原油先物価格は、20日に1バレル＝62.32米ドルと5月20日以来の安値水準となった。米国における量的緩和の早期縮小観測を受け、米ドル高基調となったことも、原油価格を押し下げる要因となった。ただし、月末にかけては、米国において一部の新型コロナウイルス向けワクチンがFDA(食品医薬品局)によって正式承認され、ワクチン接種の加速による景気回復への期待が広がったこと、そして米週間統計において原油やガソリン在庫の減少が確認されたことなどから、原油価格は上昇基調となった。
- 12日、IEA(国際エネルギー機関)は、新型コロナウイルスの変異株による感染が世界的に拡大していることを受け、年内の石油需要見通しを下方修正した。また、OPEC(石油輸出国機構)と非加盟国の産油国からなるOPECプラスが協調減産の縮小を進めた場合、2022年には、再び供給過剰に陥ると見込んでいることも明らかにした。
- 米国株式市場は、新型コロナウイルスの変異株の感染が世界的に拡大する中でも、上昇基調となり、主要3株価指数は、過去最高値の更新が続いた。7月の雇用統計が総じて市場予想を上回る強い内容だったこと、そして、米議会上院において総額1兆米ドルのインフラ投資法案が可決されたことに続き、上下両院で予算決議案が可決されたことが好感されたほか、好調な企業決算なども支援材料となった。

今後の注目点

- 変異株の感染拡大動向とともに、景気への影響が注目される。

原油の生産見通し

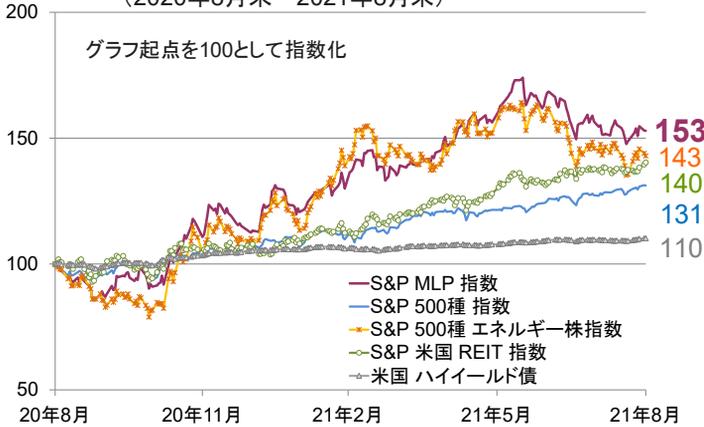
OPECプラスによる協調減産の縮小などに伴ない、原油生産は増加基調となっています。EIA(米エネルギー情報局)によると、OPECやロシアの原油生産量は、2022年にかけて徐々にコロナショック前の水準を回復する見通しです。



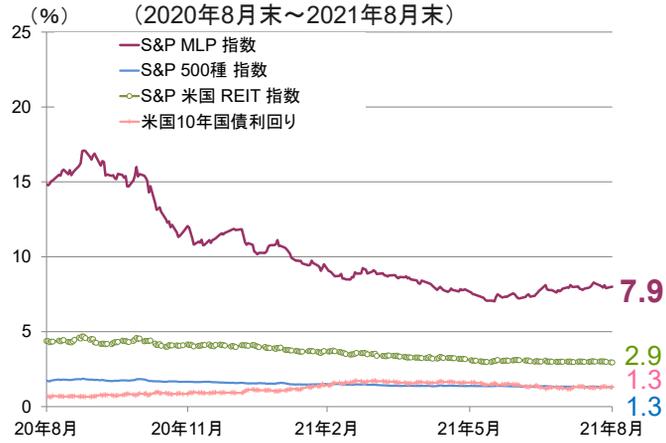
EIAのデータ(2021年8月10日発表)をもとに日興アセットマネジメントが作成

※上記グラフ・データは過去のものおよび予想であり、将来の市場環境などを保証するものではありません。

■ 過去1年の指数の推移 (米ドルベース/トータルリターン)
(2020年8月末～2021年8月末)



■ 過去1年の各資産の利回り
(2020年8月末～2021年8月末)

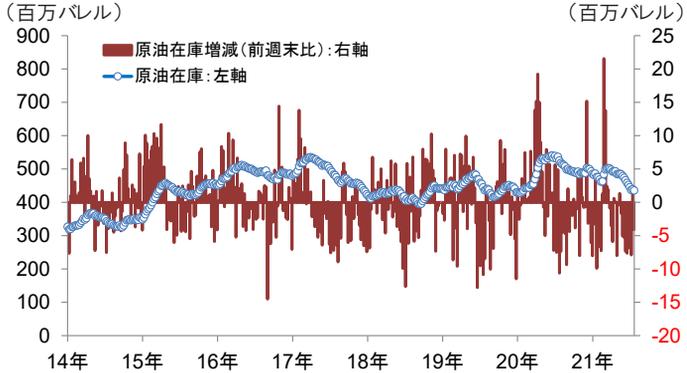


※ 各資産のリスク特性はそれぞれ異なるため、利回りだけで比較できるものではありません。

※ 各指数に関する著作権・知的財産権その他一切の権利は、当該指数の算出元または公表元に帰属します。

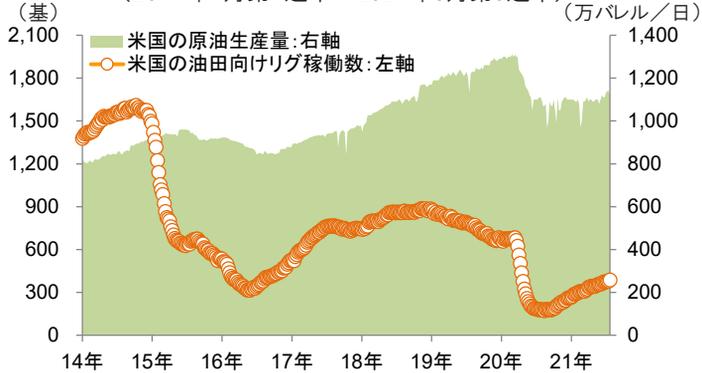
■ 米国の原油在庫

(2014年1月第1週末～2021年8月第3週末)



■ 米国の原油生産量と油田向けリグ稼働数

(2014年1月第1週末～2021年8月第3週末)



原油価格は、原油需給の影響を大きく受けます。一般的に、原油在庫が増えれば(減れば)、需給緩和懸念(引き締め期待)から、原油価格は下落(上昇)する傾向がみられます。また、油田向けのリグ稼働数が増え(減り)、原油生産量が増える(減る)と、需給緩和と懸念(引き締め期待)などから、原油価格は下落(上昇)する傾向がみられます。

■ 原油価格と米ドル指数*

(2014年1月初～2021年8月31日)



原油は、米ドル建てで取引されることから、米ドル相場の影響を受ける傾向がみられます。米ドル安基調が強まる場合、割安感などにより、原油価格に押し上げ圧力が働く可能性が考えられることから、米ドル相場の動向には注視が必要です。

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※ 上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。